

第6回 西尾市多文化共生協議会 議事概要

日時	2021年12月9日(木) 15:00~17:00
場所	西尾市役所2階 21会議室
出席者	近藤敦会長、磯貝明美委員、川部國弘委員、岩瀬恵委員、内田誠委員、高橋文華委員、川口佐織委員、平田具大委員、高木祐子委員、手嶋修一委員
欠席者	土井佳彦委員、木下典子委員、トラン ティ ホワ委員、大河内リナ委員
事務局	西尾市 手嶋課長、稲吉主事、加藤主事、榊原指導主事(学校教育課) MURC 南田、岩室

1. 開会

事務局(稲吉主事)

- ・ 土井委員、木下委員が欠席。
- ・ 池田委員は異動により、近藤委員が新たに委員として就任(本日は岡本氏が代理出席)。

事務局(手嶋課長)

- ・ 本日は忙中、協議会に参加いただき感謝申し上げます。今年度、初めて対面での開催となり、うれしく思っている。
- ・ 本市には約1万人の外国人市民が暮らしている。外国人と日本人が共に暮らしやすい多文化共生のまちづくりを推進するために、多文化共生プランの策定を進めている。委員の皆さんには、多文化共生プランの策定に向けて尽力いただいていることに改めて感謝申し上げます。これまでの協議会で寄せられた意見、指摘をもとに改善し、良い形になってきていたと感じている。本日は、前回、協議されなかった3項目について重点的に協議をお願いしたい。忌憚のない意見、指摘をいただき、より良いものを作っていきたいと思っているので、よろしくをお願いしたい。

2. 議題

(1) プラン素案について

近藤会長

- ・ 4-1、4-5は前回検討したため、本日は、4-2、4-3、4-4を中心に検討したい。

4-2 子どもの学び・育ちを応援する

—資料1にもとづき、西尾市より説明

近藤会長

- ・ 今の点でご質問やご意見はいかがか。

手嶋委員

- ・ P20 の日本語教育指導支援を増やすことは良いと思う。支援員は市教育委員会で確保して各小中学校に派遣することになるのか。

事務局（榊原指導主事）

- ・ 西三河からも派遣されるが、それでは足りないので日本語教育指導支援として、市で確保している。支援員数も限られるので、各校、週に1回ぐらいとなる。対象児童生徒が多いと、毎日、何らかの言語の指導員が入る学校もあれば、対象児童数が少ないと半日ということもある。該当する言語の指導員が派遣できないこともあり、現在課題となっている。

手嶋委員

- ・ 県立学校の場合は、予算は県からであるが、支援員は学校で探している。このため、中学校の時と同じ人から言語や学習の支援を受けられると効果的と考える。

磯貝委員

- ・ 重点プロジェクトに KIBOU、カラフルの記載があるが、利用が必要な人はもっと人数が増えると思うが、対応できるだろうか。この2か所に、送迎ができずに通えない子に対してのサポートはいかがか。

近藤会長

- ・ 通える子は KIBOU、カラフルを利用し、通えない子は各学校の支援員がサポートという状況か。

事務局（榊原指導主事）

- ・ 不登校のあゆみ学級も同様であるが、通うのがネックになっている。例えば一色町在住の場合、鶴城小学校まで通うのが難しい。また、箇所を増やすことも考えられるが、場所が確保できたとしても支援員等の人材が不足している。また、ご指摘の通り、KIBOU、カラフルについて、今の体制で足りるかは懸念事項である。通いやすさについては、公共交通機関の整備を含めて考えていかなければならないと思っている。

近藤会長

- ・ 支援員になる方は、教員の資格は必要なく、母語と日本語ができて、教科の内容もわかる人だと思うが、どのような方か。

事務局（榊原指導主事）

- ・ 資格者はなかなか確保できないので、テストを行って、面接をして、人柄を見て、総合的に判断して採用している。予算面で、指導支援員の増員には制約もあり、支援員として採用ができなくても、教育アシスタントなどを紹介している場合もある。教育アシスタントからはじめて、指導支援員に移行していくこともこれから考えていきたい。

近藤会長

- ・ このような方が専門職として確立していくと良い。

高木委員

- ・ 指標の指導支援員について、10人から16人に増員とあるが、言語はどのように考えているか。西尾市ではインドネシアの人が増えていると聞いている。

手嶋委員

- ・ ポルトガル、ベトナム、インドネシア、タガログ語などを想定している。必要な言語を優先して確保していきたい。

近藤会長

- ・ 続いて4-3を検討する。

4-3（災害や病気等から命を守る）

—資料1にもとづき、西尾市より説明。

近藤会長

- ・ 今の点でご質問やご意見はいかがか。

川口委員

- ・ 目標のあいち医療通訳システムの通訳派遣について、県が運営するシステムで、病院側がシステム利用の申し込みをして、患者と医療機関が通訳料を負担するというしくみである。現在、加入しているのは西尾市民病院と西尾保健所だけで、利用

件数を増やすのは容易ではないと思う。重点の指標にあげるのであれば、市民病院における通訳対応を増やす、緊急時の多言語対応など、市でできることを検討してはいかがか。

事務局（稲吉主事）

- ・ 登録の医療機関が少ないことが課題で、システムを知らなかったり、職員も使い方を知らなかったり、外国人市民の認知度も低い状況にある。システムを有効活用できるような取組を進めていく必要がある。指標とするかについては、意見を参考にしながらしっかり決めていきたいと思う。

近藤会長

- ・ 今の保険で使えるのは、どういうしくみなのか。
- ・ 企業に勤めている人は概ね使えるのか。

川口委員

- ・ コロナ禍の中、電話通訳は増えているが、派遣は減少している。
- ・ クリニックなどでは、健康保険で通訳システムが使えるケースがあると聞いている。医師会からの情報で、いつからかはわからないが、健康保険でシステムに加入しているところは通訳が利用できるようになるようである。

川部委員

- ・ 集住地域で開設している医療機関では、外国籍の人がたくさん受診しており、多言語で情報提供をしている。通訳を設置すると、外国籍の人の受診が増えすぎて対応ができなくなる恐れがあり、制度上も十分に整っていない。歯科について、ポルトガル語ができる歯科技工士が働いているが、同様に対応に困るので、ポルトガル語ができることは控えている。命に関わることは、行政側に制度やしきみを早く作っていただきたい。行政の責務であろう。
- ・ 従業員を医療機関に送迎したりする中で、医療機関や行政から得られると助かることなど、お気づきの点がないか。

近藤委員<代理 岡本氏>

- ・ 自社の社員については、送迎をしたり通訳をしたりしているが、社員以外の方のことまでは、よくわからない。

近藤会長

- ・ 市民病院は、どのように対応しているのか。

事務局（稲吉主事）

- ・ 現在はポルトガル語が2人である。

近藤会長

- ・ 市民病院の通訳が増えて、そこにきてもらうということは、あるのだろうか。

岩瀬委員

- ・ 医療はハイレベルなので、通訳できる人がいない。ベトナム人が増えているという現状は認識していて、ベトナム語について探したことがあるが、なかなかいない。

磯貝委員

- ・ ボランティアはどうか。

岩瀬委員

- ・ ボランティアを当てにしていけないだろう。

近藤会長

- ・ これらの状況をふまえて、少し考える必要があるかもしれない。

事務局（稲吉主事）

- ・ 情報を確認し、市民病院の担当者とも話し合いながら、検討したい。

川部委員

- ・ 地域の自主防災会の形骸化・高齢化が進んでおり、世代交代をする必要がある。防災訓練については、外国籍の人の参加が少ない。町内会の回覧板は日本語なので、日本語が読めない人は、防災訓練があることを知らない。ただ、関心のある人は、人づてで聞いて、参加してくれる。多国籍化が進んでおり、それぞれの言語の対応は地域でできることを乗り越えている。防災については急務であろう。
- ・ 本住宅では、7年前から、外国人の災害時のボランティア活動を担う自主グループも生まれている。AEDなどの研修も受けている。地域に住む外国人を支援者とする取組について、進めていく必要がある。具体的にどういう手順で、どんな手段で、地域の一員として防災支援者になれるのか、組み立て方を明確にしていきたい。

近藤会長

- ・ 重点プロジェクトの多文化防災サポーターの発掘・育成の具体的な方法について、いかがか。

事務局（稲吉主事）

- ・ ご指摘の通り、外国人の支援をされる側から支援する側になる外国人市民を増やしていくことは、重要と考えている。手法については、外国人当事者と意見を交わしながら、効果的な形をつくっていききたい。

手嶋委員

- ・ 言語ごとに、ある程度ネットワークが実態として確立されているのか。それとも、ネットワークから取り残されている人が多いのか。

事務局（稲吉主事）

- ・ 市内に様々なグループがあることは理解している。例えば、宗教関係の拠点などは把握しやすい。サッカーチームがいくつかあり、SNS で交流をしている。同じベトナム人でも、在留資格によって、定住者はコミュニティがあるが、技能実習生の状況は異なり、細分化されている。
- ・ そういうところにリーチできない人の参加できるようなところを作ることが課題となっている。

高橋委員

- ・ 日本人の配偶者で集まったり、技能ビザを持っている人で集まったり、同郷会があったり、そういうところでコミュニケーションをとっている。SNS も利用している。

近藤会長

- ・ そういうキーパーソンの方に情報の発信をしていただいたり、多文化防災サポーターになってもらったりすることも必要だろうか。

事務局（稲吉主事）

- ・ 架け橋となるキーパーソンやコミュニティを把握して、そこから発信していきたい。

近藤会長

- ・ 外国人の消防団員はいるか。

事務局（稲吉主事）

- ・ 聞いたことはない。外国人の団員を増やす取組について、話の中ではあがっている。

4-4 取り残されず情報を得ることができる

—資料1にもとづき、西尾市より説明。

近藤会長

- ・ 只今の説明について、質問や意見はいかがか。

手嶋委員

- ・ P32 外国人市民においての「おいて」とあるが「が」という意味だろうか。

事務局（稲吉主事）

- ・ 「が」に修正する。

磯貝委員

- ・ YouTube チャンネルは、誰が作るのか。

事務局（稲吉主事）

- ・ 市でチャンネル開設をして、各課の情報を編集・多言語化する。例えば、ごみの捨て方の紹介、制度の説明、申請書の書き方などを想定している。

磯貝委員

- ・ すばらしい取組なので、がんばっていただきたい。

岩瀬委員

- ・ 質問などを書き込みができると良い。

川部委員

- ・ 情報伝達は、知りたいことを伝えてほしい。作りたい側の情報が流れ、ほしい側の情報が届いていないことが課題である。外国人市民が、地域に馴染まなかったり、自分たちの居場所がないと受け止められてしまっている。だれのために何の目的で作るかをきちんと精査をしていただきたい。

岩瀬委員

- ・ 税金を使うことなので、中途半端な気持ちでは始めない。外国人の立場を考えて実施する。
- ・ 外国人は何が知りたいか、毎日、私の耳に入ってくる。また、母国語の読解力が厳しい方も少なくないことに留意する必要がある。
- ・ 西尾市ではワクチンについて、外国人専用の日程を3日間確保した。外国人に伝えるため、必死に様々な手法を使って情報発信を行った。そこでどのように発信したらよいか分かり、外国人の立場からの情報発信に取り組んでいきたい。YouTubeと言っても真剣であり、最後の砦であり、これで本当の課題がみえてくる。

川部委員

- ・ 多国籍化が進んで、様々な言語に対応していくのは大変と思うが、伝えてほしい情報を伝える工夫をもっとしていただき、見る人にわかりやすい情報提供ができるとありがたい。

川部委員

- ・ 一色の公営住宅では、町内会がほぼ崩壊状態で、民生委員がいない地区もあり、防災面で課題がある。

岩瀬委員

- ・ YouTube でしたいこととの1つとして、面識を持つために近所の人と挨拶をすることを推奨していきたい。そこから、ごみの捨て方や避難の方法などの会話をするコミュニケーションが生まれていく。

高橋委員

- ・ 私は班長を務めている。回覧板を回す、集金に行くことで、みんなと挨拶できていることも良いと思う。まずは、外国人の人に班長などになってほしい。

岩瀬委員

- ・ 町内会に一度、入っていただきたい。

川部委員

- ・ 日本人も含めて町内会に入っている人が年々少なくなっている。それが地域力を弱くしている要因の1つである。町内会に加入することの主旨・目的を十分に説明できていない。地域の在り方を見直していくことが必要で、地域力がお隣の人を守り、自分自身を守ることが大事な分野であると私は感じる。

近藤会長

- ・ 重点プロジェクトの「情報の動画化の促進」について、「生活オリエンテーション等の動画による案内を」としてはいかがか。なお、入管庁の有識者会議の意見書で、日本語講習だけでなく、日本社会のしくみ・生活に必要な知識の2本立ての方向性が示されている。

高木委員

- ・ 指標の「日本語能力に関する資格取得の支援」について、どのようなことを想定しているか。

事務局（稲吉主事）

- ・ 実施には議決が必要で予定の段階であるが、日本語能力試験の受験者に対して、クオカードの配布を考えている。
- ・ 近隣では豊橋市や蒲郡市等でも実施している。

高木委員

- ・ 子どもの教育について、A I Aの基金から教室運営や、日本語検定試験に合格すると受験料が戻ってきたが、それが、今年度なくなってしまった。こういう取組は子どものモチベーションも上がるのでとても良いと思う。
- ・ 情報伝達について、生活する上で必要な情報をインターネットで出していただくことは非常にありがたい。もう1つ、私が関わっている外国人たちの意見としては、日本人と同じように楽しい情報がほしいと言われる。例えば、外国人の子どもの方が日本人より、いろいろな経験が少なく、親子で楽しめることなど、経験につながる情報を発信していただくと、ありがたい。

事務局（稲吉主事）

- ・ イベントの情報等の提供も考えていきたい。

磯貝委員

- ・ 日本語能力資格試験について、クオカードを渡すということを考えているとのことだが、どのような条件があるか。

近藤会長

- ・ 大学では、受験者すべてに一部補助、合格者には上乘せと2段階にしている。

事務局（稲吉主事）

- ・ まわりの市や予算額の状況をみながら、対象者、金額、回数、事務負担などをふまえていきたい。

手嶋委員

- ・ 4-2の視点になるが、子どもたちの状況は多様で、中学の後半で来日する子もいたり、中学卒業後に就職する子もいる。そういう子どもたちの就業状況が気になる。正規職員とならないと、低所得で経済的に困るスパイラルから抜けられない。どのような実態にあって、就業支援について考えることができないか。

事務局（稲吉主事）

- ・ 市で十分に把握できないところがある。県・商工会・ハローワークと連携して就業につながる取組が必要と思うが、市でできることがあるか担当課に確認したい。

川口委員

- ・ 県では進路応援ガイドブックをつくっているところである。企業ヒアリングをすると、企業によってかなり温度差を感じるが、前向きな企業も多い。外国人は、手取り早くお金を稼ぐために派遣に行きがちで、社会保険が弱く、雇い止めのリスクなど保護者も十分に理解していないことも課題となっている。高校入試も変わるので進学も含めて作成している。

川部委員

- ・ 高校に入学しても、家庭の事情で中退して働いている子どももいるのが現実である。子どもは社会の宝なので真剣に対応してほしい。実態を知っていただいて、分け隔てなく学べる場をつくっていただきたい。

磯貝委員

- ・ 全国で高校中途退学者の9割以上が外国人で、非正規雇用が多いということを講義でお聞きしたことがある。西尾市では初期指導はがんばっているが、その後の継続的なサポートも重要と考える。

近藤会長

- ・ 高校になると県が担当だろうか。

川口委員

- ・ 県教育委員会にも働きかけているところである。親の収入に応じて高校も無償化されている。

岩瀬委員

- ・ 子どもの教育についていろいろな相談を受けている。親を助けるのではなく、南米では学校に行きながら仕事するのは当たり前となっている。本人も、学校より、働いてお金をもらうことの方が楽しいと思っている。全日制よりも定時制の方が本人に合っていることもある。アルバイトばかりで学校に行かないことについて、親子で話す場に参加したが、親子でお互いの言葉がわからずに通訳が必要であった。このように親子でのコミュニケーションが難しいことも結構ある。
- ・ 派遣社員の親についても、家族を養い、仕送りもして、子どもは親を誇りに思っている。子どもはそれを見て育っている。派遣会社のサポートが充実している場合もあり、正社員の方が不便であえて正社員を選ばない人もいて、一律にいけないところがある。それぞれの考えを尊重しながら、どこにつなげていくかを考えている。

事務局（MURC）

- ・ 西尾市では、進路説明会をかなり熱心に行っており、計画にも位置付けている。

近藤会長

- ・ 他に意見がないようなので、次の議題に移る。

(2) 計画書コラム掲載について

―資料2にもとづき、MURCより説明。

近藤会長

- ・ 質問、ご意見はあるか。

内田委員

- ・ コラムは、どのようなことでも良いか。

事務局（MURC）

- ・ 事務局で仮に分野を想定してみたが、それにとらわれず記載していただいても構わない。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局（稲吉主事）

- ・ 1月11日～2月9日までパブリックコメントを実施、第7回協議会を2月下旬に開催、3月末にプラン策定を予定している。

近藤会長

- ・ 何か質問はあるか。

内田委員

- ・ 推進に向けてについて、国際交流協会、町内会、事業者などの役割が記載されているが、現時点でこの人たちは知らないのではないか。特に町内会はいかがか。また、多文化共生協議会のメンバーとなるのか。

事務局（稲吉主事）

- ・ 期待されるものとして役割を記載している。市民に周知を図りながら、進めていきたい。
- ・ 町内会の代表町内会会議等で説明していきたい。また、多文化共生協議会について、プランの進捗状況の把握に効果的な人たちに参加を想定している。

近藤会長

- ・ 国の法律では、法定義務と努力義務を使い分けており、このプランで民間は努力義務ということであろう。

事務局（手嶋課長）

- ・ 市で行うことをプランに記載しており、地域については、市の方向を示し、協力を求める位置付けである。

近藤会長

- ・ 最後に、今回のプランに入らないが、高校進学率や学校満足度などを毎年、把握していくことも考えてはいかがだろうか。
- ・ 他には、よろしいだろうか。
- ・ これを持って、会議を終了したい。この後は事務局にお願いします。

事務局（稲吉主事）

- ・ これを持って、本日の会議を閉会する。

以上